わが社を支える自慢の社員

化学工業の従業員数は88万人、製造業全体の11.5%を占める。研究者、製造現場の管理者、営業担当者など、一人ひとりの役割が企業、化学産業を支えている。ＪＮＣ石油化学の藤原武さんと宇部興産の酒井麻衣さんに職場での活躍や仕事に抱く思いを聞いた。

合成ゴムの生産管理

宇部興産

酒井　麻衣さん

宇部興産の酒井麻衣さん（24）は千葉石油化学工場（千葉県市原市）で自動車タイヤ側面に使う合成ゴム「ポリブタジエンゴム（ＢＲ）」の生産管理を担当する。同工場のＢＲ製造現場を担当する唯一の女性だ。ＢＲの販売や生産、出荷状況は日々、刻々と変わるため状況に応じた綿密な生産計画が不可欠。営業や生産現場とのコミュニケーションが欠かせない。「現場状況確認は邪魔にならないタイミングで声をかけることが重要」と、笑顔をみせる。

☆★☆

理数系は得意ではなかったけれど、化学反応で色が変わる理科の実験が好きだったので、地元の千葉県立茂原樟陽高校（千葉県茂原市）の環境化学科に入学しました。環境化学科は環境と化学の基礎知識や技術を学び、健康で住みやすい生活環境を支える技術者の養成を目的としています。同学科で学んだ化学の基礎を卒業後も生かしたいと思って宇部興産への入社を決めました。

入社以来、ＢＲの生産管理を担当し、今年で6年目になります。営業担当者からのＢＲの販売数量をもとに、半年先までの生産計画を立てています。製造現場にも足を運び、生産状況に異常がないか確認することも日課です。

知りたいという探求心を持って

一番大変なことはＢＲ生産設備でトラブルが発生し、私が立てた計画通りの生産が不可能になった時です。営業担当者や現場担当者と相談しながら、新しい計画を立てる際には頭を悩ませます。いいかげんな計画を立ててしまえば生産現場だけでなく顧客にも迷惑をかけてしまいます。状況に応じては無理難題を生産現場にお願いしてしまいますが、「今回の計画は分かりやすかったよ」と声をかけられると、やりがいを感じますね。

今の目標は、入社後しばらく生産管理の仕事を教えてくれた前任者のような仕事ができるようになることです。前任者は生産設備でトラブルが起きても、販売や出荷状況を確認しながらトラブルの状況を把握し、即座に適切な生産計画を立て、安定した生産を心がけていました。トラブルの状況を把握するにはＢＲの製造工程や在庫の状態をきちんと把握することです。知りたいという好奇心、探求心を持って関係者に認めてもらえるよう一生懸命勉強します。

２００４年ごろからベテラン社員の定年退職が相次ぎ、合成ゴム製造グループ45人の4割超が30代以下の若手になりました。今後も定期的に新人が入ってきます。新人の面倒をしっかり見られるよう頑張ります。

趣味は読書です。今はまっているのはミステリー作家の乙一ですが、たくさんの本を読みたいので、年50冊の読破を目指します。

合成ゴム製造グループ製造チーム

先端放熱基板を開発

ＪＮＣ石油化学

藤原　武さん

ＪＮＣ石油化学（千葉県市原市）の藤原武さん（44）はスマートフォン（多機能携帯電話）向け高性能放熱シートなどの開発チームのリーダーを務める。同社が液晶化合物に次ぐ事業の育成を急ぐ中、この放熱シートに対する期待は大きい。工学博士号を持つ藤原さんは２００４年に同社へ入社するまで、大学で半導体に関する研究など無機化学のスペシャリストとして歩んできた。その経験とＪＮＣが持つ有機化学の技術の双方を生かせる存在として活躍している。

☆★☆

子どものころは時計やラジオをばらしては両親に叱られていました。車が好きで、カー用品店で整備士のアルバイトもやりました。このような機械いじりの経験は、測定機の一部を自作できるといったことなどで、今も生きています。

両親も私が物理・機械系に進むと思っていたみたいです。ところが、一時期セラミックエンジンの開発がブームになったことをきっかけに、大学では無機化学の研究へと進むことに。大学院の博士課程では薄膜太陽電池の研究、その後は研究員として半導体製造プロセスに関連する研究を続けてきました。

無機・有機 両方の経験が強みです

当社に入社し、まず液晶ディスプレーの配向膜の開発に携わりました。無機化学から有機化学の世界へ飛び込むことになったのですが、はじめは無機化学と有機化学で用語や研究アプローチの違いなどにとまどいがありました。幸い、配向膜は表面科学の世界。研究者時代に私が所属していた研究室では表面科学の研究もしており、表面科学についてよく話を聞かされていました。他にも大学の研究者時代の知識や知見が生きています。

今は無機化学と有機化学の両方を経験していることが強みになっているかもしれません。サイエンティストであれば一つの分野を深堀りするのも良いかもしれませんが、エンジニアとしてやっていくには幅広い知識と経験がある程度必要ではないかと思っています。

放熱材料は2年程度で商業化への道が見えました。これはかなり速いペースです。ただ、このような例を目の当たりにすると、目の前の技術を実用化や商業化することで頭を占められそうになりがちです。研究者として長くやってきた身としては、10年後を見据えるような長期的な研究もおろそかにしないようにしたいと思っています。

趣味は一度に挙げられないくらい多く持っています。車のほかに、音楽バンドが好きで、ベースを15本ほど所有しています。カメラは銀塩写真時代から。フェレットも飼っています。昼間は家内に面倒を見てもらっています。人なつっこいですよ。

市原研究所　第24グループ　研究第2センター　チームリーダー

あしたの世界へ、つぎつぎと。

タイヤ素材、半導体素材、液晶素材だけではなく、

精密加工、メディカル材料、環境エネルギーの分野まで。

私たちはマテリアルで、社会に広く貢献していきます。

ＪＳＲの、あたらしい挑戦にご期待ください。

可能にする、化学を。

JSR株式会社
http://www.jsr.co.jp
JSR

いたるところに昭和電工。

ITネットワークを支えるエレクトロニクス分野、車や建築に使われる素材・部材、
地球環境に貢献する省エネ・省資源技術など、昭和電工の技術や製品は、
皆様の暮らしのさまざまな場面で活躍しています。
これからも、独自技術により個性的な製品を生み出す化学企業として、
社会に貢献してまいります。

昭和電工株式会社
http://www.sdk.co.jp
〒105-8518 東京都港区芝大門 1-13-9　IR・広報室｜tel.03-5470-3235｜fax.03-3431-6215